

地域包括支援センターアンケート

①どの様な相談が多いですか	②相談があったケースで包括のみで解決できない場合、どの様な機関などに相談していますか	③相談解決するためにどの様な仕組み(地域づくり、機関など)があったらいいと思いますか	④地域の人に一緒に働いてもらうためにどの様なことが出来ますか
<p>家族の問題に高齢者ケアの問題が絡むので単なる介護保険サービス利用での相談は少ない。</p>	<p>市,ケアマネ,保険所,基幹相談支援センター,インクル,医療,近隣の方,大家さん,ソーシャルワーカー,看護師,不動産屋,民生委員,自治会長など役員,老人クラブ,サークルメン</p>	<p>現場(相談現場)の想像力のある人がいる所、医療とか家族とか包括とかかきねを作らない仕組みと人作り。</p>	<p>③の様な人で動くのをいとわれない人を雇ってもらい、コミュニケーションを良くして、一緒に動き、成果を少しでも感じてもらうこと。</p>
<p>・高齢者世帯で介護が必要になった時に、介護抱え込みや認知症などの病気の理解が出来ないため虐待につながる。地域との交流も少ない、関わりを持ちたくないなどの孤立した世帯への関わり。介護者(特に夫や子供)が殴る・突き飛ばす・暴言を吐く・出来ないことを出来ていた時のようにやらせようとする、出来ないことにイライラする。能力以上のことを望む。 ・ゴミ屋敷であることが分っているが、支援を受けない。介入が難しい。 ・精神障害を持っている方への支援。病気なのか性格なのか分からない。周囲に無茶な要求し行政・民生委員・包括などの介入も難しい。 ・セルフネグレクト:サービスが必要になっているのに、必</p>	<p>鎌倉市いきいき課、保健所、関わっている医師</p>	<p>包括が相談できる専門職、虐待対応の事例など勉強会が出来る環境</p>	<p>気軽に話が出来る関係者・地域の人、病気や生活状況への偏見がない対応や世の中。</p>
<p>・件数としては介護保険制度の相談が多いですが・・・ ・高齢者(認知症)と障害(精神疾患や知的)の世帯して支援が必要なケース ・認知症で成年後見制度の申立てにつながるケースも増えている。認知症、ゴミ出し等で町内会が困っている、万引き行為等で店が困っているケース</p>	<p>障害支援事業所(ラファエル会、とらいむ、キャロットサポートセンター)、基幹型相談支援センター、保健福祉事務所、インクル、リーガルサポート、法テラス等関係機関に相談している。</p>	<p>・行政機関にも専門職の配置をして、縦割りではなく庁内の連携が出来る仕組み。 ・介護保険等の制度で解決できない内容については、町内会単位でのちょっとした手伝いが出来る仕組みづくり。</p>	<p>・人材発掘・育成・コーディネート ・教育委員会にも働きかけをおこない、小学校の福祉教育、子育て世帯から関わりを持ってもらい、地域での活動に協力してもらう。</p>
<p>・お一人暮らしで、身寄りがない若しくは身寄りが疎遠であった遠方であったりするケースが多くなって来ている。 ・認知症のお一人暮らしのケース、老々のケース。または息子や娘が引きこもりであったり精神疾患等の複合ケース。 ・生活困窮になっているのに本人、家族が気が付かない</p>	<p>・鎌倉市高齢者いきいき課 いきいき担当、鎌倉市市民健康課 ・神奈川県鎌倉福祉保険事務所 ・鎌倉市基幹相談支援センター、障害者相談支援事務所 ・鎌倉市生活福祉課、インクルージョンネット等</p>	<p>・地区社協単位、若しくはもう少し小さな協議体にて、ケースを基にしたケア会議の場。</p>	<p>包括の立ち位置で見た場合には、通常業務の中での地域との交流や相談ケースを通して把握した事柄について、地域にフィードバックしながら地域のネットワーク会議やケア会議にて取り上げて情報を共有したり解決できるようにという感じ。。。上手くまとめられなくて申し訳ないです。</p>
<p>・一人暮らし、認知症、本人に困り感はなく、周囲に心配し困っているケース。 ・家族がいても本人が受診を拒否して医療につながらないケース。 ・キーパーソンが不在、あるいはキーパーソンとしての力が弱いケース。 ・家族が診断のついていない精神疾患(医療につながっていない)のケース。 ・経済的困窮が著明なケース ・家事支援が必要なケース</p>	<p>・市役所 ・民生委員、住民、自治町内会 ・医療機関 ・基幹型相談センター ・警察、消防 ・保健福祉事務所 ・社協ボランティアセンター ・インクル ・弁護士、司法書士、行政書士の先生方</p>	<p>・地域の支え合いのしくみづくり(ボランティア、サロン、見守りなど) ・地域ケア会議が地域の中でより浸透し(身近に感じていただく)、積極的に開催できるしくみづくり ・共生社会に向けて、市役所の担当課が横断的な連携をとること、あるいは、窓口の一本化。</p>	<p>・地域の人からのヒアリング、現状やニーズを把握。 ・小地域単位での意見交換会など(顔のみえる関係づくり)、地域の方と一緒に考える場。 ・地域ケア個別会議の積み重ね。</p>
<p>・対象者が認知症や精神疾患で独居で包括の接触を拒否、KP不在やKPも関わりを拒否している。近隣や民生委員を通してあがってくるケース。 ・多問題困難ケース、対象者は認知症高齢者、同居家族にそれぞれ障害者や虐待、孫の問題など様々な問題が絡み合う。 ・介護保険を利用し、サービスを利用したい。</p>	<p>いきいき福祉担当、消費者生活センター、保健所</p>	<p>・包括をスーパービジョンしてくれる機関 今はいきいき福祉担当だけが不在の時など相談出来ない時もあるので複数いた方がいいと思います。</p>	<p>地域リーダー的存在である民生委員や自治会、町内会の役員会に参加させてもらい地域福祉を強めていけるよう協力要請をすることが出来ると思います。</p>
<p>①どの様な相談が多いですか</p>	<p>②相談があったケースで包括のみで解決できない場合、どの様な機関などに相談していますか</p>	<p>③相談解決するためにどの様な仕組み(地域づくり、機関など)があったらいいと思いますか</p>	<p>④地域の人に一緒に働いてもらうためにどの様なことが出来ますか</p>

地域包括支援センターアンケート

<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネとの相性が合わなくて交代したい ・同居家族のいる家庭の訪問介護利用 ・サークル活動等への体操教室等出前の講師依頼 ・在宅生活継続困難な方の行場所(死に場所)終の棲家 ・介護保険利用についての ・相談者若しくは離れて住む親族からの生活相談 ・介護者が精神疾患 ・多世代同居でそれぞれに支援が必要 ・経済的困窮によりサービスが使えない ・医療サービス、支援の関わりを拒否され介入困難 	<p>警察、民生委員、弁護士、司法書士、消防、自治会町内会、地区社協、医療機関、 基幹相談支援事業所、行政、他包括、介護保険サービス事業所、ケアマネ、不動産、アパート大家、 各種入所施設、施設紹介センター、支所、老人福祉センター、地域の互助グループ 保健福祉事務所、地域住民</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のつながりの積み重ね。こちら側の目的達成ばかり考えては一方通行。 ・高齢者の相談窓口だからと言って、「高齢者」本人だけを見ては視野、思考が狭くなる。 ・地域包括としては、高齢者を入りにしながら地域づくりやネットワークづくりを考える視点が必要。 ・また、言わずと知れた「顔の見える関係づくり」⇒「お互いの立場、役割理解を深める」⇒「お互いさまの意識で頼ったり頼られたり」 ・そこに暮らす地域住民自身が強みや弱みを知って関心を持ってもらうと共に、医療・福祉・介護等業務でその地域に関わる専門職が地域の方から、地域特性を教えてもらい、地域への理解を深めてもらう機会を作る。 ・日常の掃除や買物を低額で行ってくれるグループが増えると助かる 関係者関係機関が情報共有、ネットワークを構築できる場 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いさまの関係作り ・仕事で地域に携わっている私たちが、担当する地域に興味・関心を持ち、好きになる ・地域の方に「地域力」を上げると上から目線で支持的・指導的に関わっても共には歩めないのは？ と考えている。地域に係る私たちが、地域に対し何が出来るかを考える。個別ケース対応等に業務として関わる事は当然であり、それ以上に、その地域の特性を知る為に何がこちらからできるか？どう動くか。 ・プライベート又は業務の範囲内で、無理なく地域の行事に参加・協力する。地域の方たちとの飲み会の席にご一緒する、お酒の席に声をかけてもらえる関係作り等、地域の人たちと顔が見えて少しの無理をお互いに言い合えて、無理を承知で無理なことも受入れやってみる。身を粉にする事も時にはある。 ・地域の人が安心して取り組めるサポート(一緒に考える、助言) ・地域で支えるための意識啓発
<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議のケース。ごみ出し、家賃滞納、認認介護、アルコール依存、消費者被害(送り付け詐欺等) ・介護保険申請の相談や医療機関受診に関する相談。 	<p>・鎌倉市各課、福祉保健事務所、かまくらみまもり、やすらぎ、市社協、自治会、警察、消費生活センター、郵便局、銀行、宅配業者、タクシー会社、スーパー、消防署など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・固定で常に誰かいる程よい広さでお茶が座って飲める場所。 無駄話のようでもどどんアイデアが出て、地域の人的、物的資源も集まる。 ・公園や公共機関の屋外スペース(なごやかセンター)を利用したデイサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで地域包括ケアが必要なのかが周知を図るために、地域で話せる機会を多く持ち、全世代の方に知ってほしい。(行政からやらされている感を持つ方も多いので) ・地域の方がやりたいこと、困っている事にすばやく柔軟に対応していく。駐車場の事やカモメサロンのこと等々。 ・地域に負担感を持たないようできることから共に入ってもらい。一人に負担がかからないよう分担、分業をしてそれぞれの役割を理解してもらう。そうすることで自分たちの地域は自分たちが支えているというモチベーションに繋がると思います。 ・互助の大切さを肌で感じてもらう為、地域の活動場所に出向き、信頼関係を強化します。
<ul style="list-style-type: none"> ・受付で多いものは退院時相談及び介護保険申請です。 ・対応で苦慮するケースの相談で独居、認知症、身寄りなしも増えています。 	<p>・行政、保健所、児童民生委員、警察など ・病院等医療機関</p>	<p>住民同志の支え合い、その為の集いの場</p>	<p>③と同様</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・キーパーソン不在 ・家族が皆、精神疾患である。 ・複合的課題、すべてのもの(人)が支援が必要となってしまう事例。 	<p>・高齢者いきいき課 ・保健福祉事務所 ・子ども相談課 ・後見センター ・民生委員</p> <p>・相談支援員 ・司法書士 ・病院や薬局 ・警察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制度を横断的にまたがり相談できる窓口づくり ・年齢制限なく、また世代を問わず相談できる窓口(要となって招集してくれる) 	<p>包括として地域共生社会の啓発</p>